

学修支援センター企画 「ふしぎ探検隊」⑥ レポート

7月18日（金）18時～19時30分まで学修支援センターにおいて、「チラシを使った食糧輸入地図づくり」を行いました。

<0. もやしの観察日記の報告>

今回も、探検隊員の一人がモヤシの生育を観察して作成した日記をみんなで確認しました。普段食べているモヤシを育てる喜びや育てることの難しさを感じることができたようです。どのような環境の工場で作られているのか、気になるところです。



<1. 日本の食糧輸入事情について>

スーパーなどのチラシにある、マグロ(ロシア産)などの表示。これを用いて食糧輸入地図づくりをします。

現在の日本の食糧自給率は39%。輸入に関して日本をとりまく状況を、TPPを中心に学びました。関税を取り払った貿易自由化の影響や国内産業を守るために輸入品にはどれくらいの関税がかけられているのか。

<2. チラシの輸入食品を切る>



早速切り抜き作業に入ります。2ヶ月分ほどのチラシから切り抜いていきます。スーパー同士の違い、価格や得意な食品、新鮮さ具合など、会話しながら進めていきました。

単に切るだけで飽き足りなくなり、みんなが見つけていない珍品はないか、おもしろ食糧探しへシフトしていき、30分ほどの予定が大幅に過ぎてしまいました。それほど没頭してしまう作業ということになります。

<3. 世界地図の産地表示国に貼り付け>



地図はNASAのものを基に作成されており、日本は真ん中ではなく一番右、つまり極東に位置しています。国名も記されており、原産地を確認しながらチラシを貼り付けていきます。

国名を初めて聞いたり、国名を知っていても場所を知らなかったり、地図自体に関する学ぶことがあります。

<4. この食糧地図から分かること>



地図の完成です。

モーリタニア、チリ、カナダ、スペイン、デンマーク、グリーンランド、オーストラリア、ロシア、中国、台湾など、輸入国は全大陸に及んでいることが見えてきます。

チリなど南米の養殖魚は日本から技術提供があったこと、その輸入はほとんどが空輸で、到着地は成田空港であり、別名成田漁港と呼ばれていること、北洋漁業が衰退した経緯、などなど興味深い話に発展し、多くを学びました。

<5. 学習プランとしての感想>

季節別にすることでその地域が属する気候を推測したり、食糧別にすることでその国の農業・漁業事情を推察したり、いろいろな活用方法があるとの感想がありました。

<6. 食糧別消費量>

「世界地図 2010」を元に、食糧別消費量は宗教や風土など、各国の文化を反映していることを学びました。

☆前期の「ふしぎ探検隊」は終了です。後期に再開します。